

特集

小惑星「Chinacyo」命名

～遥か彼方の故郷～^{ふるさと}

記念式典を開催

小惑星「Chinacyo」の命名記念式典が、6月6日にあしびの郷・ちなで開催されました。

式典には、町内の中学生と一般住民を含め約200人が出席。平安正盛町長の開会のあいさつに続き、小惑星の命名者である天文家の渡辺和郎氏から平安町長へ命名認定書の交付が行われました。

そのほか、発見者の渡辺和郎氏と宇宙開発の専門家の寺門邦次氏による記念講演や中学生がデザインした記念バッヂの表彰などが行われました。

星の命名とは

星の名前は、世界遺産と同等に人類（文明）が存在する限り未来永劫にわたって残されることとなります。現在、軌道が正確に求められ、番号が付与された小惑星は42万個以上。当初は、これほどの数があるとは考えられていなかったため、ギリシャ神話やローマの古典に登場する「女神」の名前を付ける決まりでした。しかし、300を超え、あたりから女神の名前が足りなくなり、星の名前では唯

一、発見した方が小惑星の命名委員会に対し「固有名」を提案する権利を認めています。天文学者や科学者、そのゆかりの地名などが大多数を占めています。数が多いゆえ珍名も多く認められて、ある程度自由な名前が付けられています。しかし、会社名やペット、キャラクターや政治家の名前は基本的に禁止または制限されています。

知名町の星が誕生

小惑星（19303）は、1996年10月5日に北海道美幌町在住の円館金氏（えんだて・きん）が撮影した写真をもとに、札幌市在住の渡辺和郎氏の精密位置測定から共同発見として認められました。今日まで「固有名」が付けられないまま登録番号と仮符号の状態でしたが、今回の申請と公表により固有名『知名町』が決定しました。小惑星（19303）「知名町」は、やや潰れた楕円軌道で太陽の周囲をおよそ3・76年かけ一周しています。その大きさは反射率から直径6kmぐらいと推定され、発見される小惑星の中では比較的大きな部類に入ります。